

報道関係者 各位

インフルエンザ定点報告及び流行拡大に係る 注意喚起について

インフルエンザの患者数及び流行拡大に係る注意喚起（「インフルエンザの流行が拡大中！」）について、別紙のとおりとりまとめましたので、お知らせいたします。

インフルエンザ流行レベルマップ

《コメント》

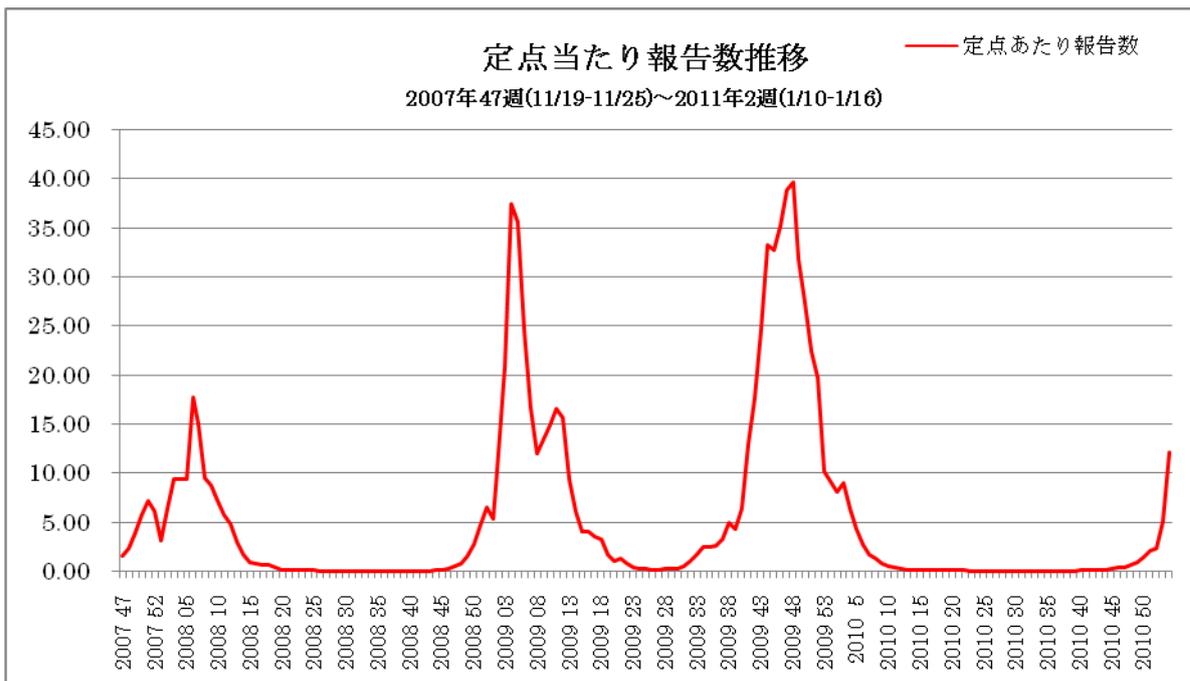
今シーズンのインフルエンザの定点あたり報告数は2010年第42週以降増加が続いている。2011年第2週のインフルエンザの定点あたり報告数は12.09（患者報告数59,832）となり、前週の報告数（5.06）よりも2倍以上の増加となった。定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約78万人（95%信頼区間：71万人～85万人）となり、20代約17万人（22.1%）、30代約12万人（15.6%）、5～9歳約10万人（13.0%）の順であり、特に今シーズンは20代以上の成人層が57.7%と多くを占めている。

都道府県別では沖縄県（55.26）、佐賀県（27.87）、福岡県（24.81）、宮崎県（24.08）、長崎県（20.43）、大分県（19.98）、宮城県（17.82）、千葉県（17.56）の順となっている。全ての都道府県で定点あたり報告数の増加がみられ、26県で10.00を上回った。

警報レベルを超えている保健所地域は18箇所（北海道1、千葉県3、静岡県1、大阪府1、福岡県3、佐賀県2、長崎県1、熊本県1、宮崎県2、沖縄県3）、注意報レベルのみを超えている保健所地域は244箇所（41都道府県）と共に大きく増加した。

直近の2010年第50週～2011年第2週の5週間のインフルエンザウイルス検出報告件数は、AH1pdmが最多であり、次いでAH3亜型（A香港型）、B型の順である。今シーズンは第36週以降AH3亜型が多く検出される状態が続いていたが、第49週以降はAH1pdmの検出数の方が多くなっている。

○出典（国立感染症研究所感染症情報センター インフルエンザ流行レベルマップ）



インフルエンザ定点当たり報告数・都道府県別

2011年2週(1月10日～1月16日)

区分	インフルエンザ	
	報告数	定点当たり
総 数	59,832	12.09
北海道	1,883	8.26
青森県	710	10.92
岩手県	702	10.97
宮城県	1,711	17.82
秋田県	368	6.69
山形県	777	16.19
福島県	1,134	14.18
茨城県	1,303	10.86
栃木県	867	11.56
群馬県	1,609	16.42
埼玉県	3,589	14.41
千葉県	3,687	17.56
東京都	4,141	9.88
神奈川県	3,382	10.25
新潟県	650	6.77
富山県	437	9.10
石川県	358	7.46
福井県	280	8.75
山梨県	508	12.70
長野県	815	9.26
岐阜県	906	10.41
静岡県	1,890	14.00
愛知県	2,394	12.28
三重県	511	7.10
滋賀県	459	8.66
京都府	1,058	8.67
大阪府	1,954	6.56
兵庫県	1,267	6.37
奈良県	351	6.38
和歌山県	151	3.02
鳥取県	418	14.41
島根県	499	13.13
岡山県	619	7.37
広島県	814	7.08
山口県	784	11.20
徳島県	146	3.74
香川県	187	3.82
愛媛県	198	3.25
高知県	226	4.71
福岡県	5,011	24.81
佐賀県	1,087	27.87
長崎県	1,430	20.43
熊本県	1,198	14.98
大分県	1,159	19.98
宮崎県	1,421	24.08
鹿児島県	1,578	16.97
沖縄県	3,205	55.26

インフルエンザ定点当たり報告数推移

区分	50週	51週	52週	1週	2週
	定点当たり	定点当たり	定点当たり	定点当たり	定点当たり
総 数	1.41	2.06	2.30	5.06	12.09
北海道	5.87	7.14	5.68	5.47	8.26
青森県	0.03	0.22	0.52	4.15	10.92
岩手県	1.11	1.02	1.97	5.28	10.97
宮城県	2.52	2.81	3.26	9.15	17.82
秋田県	0.33	0.85	2.25	3.95	6.69
山形県	0.50	1.31	2.00	5.98	16.19
福島県	1.01	1.39	2.34	6.14	14.18
茨城県	1.53	2.08	3.20	6.08	10.86
栃木県	0.84	1.61	2.33	5.88	11.56
群馬県	1.84	3.07	2.88	6.05	16.42
埼玉県	2.44	3.69	3.79	6.49	14.41
千葉県	1.18	1.84	1.97	6.60	17.56
東京都	1.57	2.34	2.09	4.28	9.88
神奈川県	1.50	2.67	1.90	4.40	10.25
新潟県	0.14	0.16	0.18	1.97	6.77
富山県	1.81	1.67	1.27	2.67	9.10
石川県	0.06	0.27	0.56	2.10	7.46
福井県	2.06	0.87	1.91	3.38	8.75
山梨県	2.33	3.28	1.73	5.30	12.70
長野県	0.31	0.68	0.95	3.28	9.26
岐阜県	1.01	1.53	2.79	4.70	10.41
静岡県	0.63	0.83	1.40	4.95	14.00
愛知県	0.99	1.78	1.70	4.18	12.28
三重県	0.17	0.47	0.83	2.90	7.10
滋賀県	0.21	0.49	1.53	3.83	8.66
京都府	0.76	1.15	1.25	3.24	8.67
大阪府	0.38	0.81	1.01	2.66	6.56
兵庫県	0.43	0.78	0.96	2.33	6.37
奈良県	0.69	1.05	0.44	2.09	6.38
和歌山県	0.36	0.38	0.48	1.54	3.02
鳥取県	0.17	0.34	2.34	5.83	14.41
島根県	0.84	1.26	1.89	4.39	13.13
岡山県	0.38	0.68	1.11	2.87	7.37
広島県	0.26	0.61	0.84	2.02	7.08
山口県	0.30	0.40	0.81	4.63	11.20
徳島県	0.03	0.18	0.05	1.64	3.74
香川県	0.76	1.14	1.45	1.57	3.82
愛媛県	0.41	0.43	0.38	1.59	3.25
高知県	0.02	0.25	0.52	1.60	4.71
福岡県	1.08	2.31	5.01	11.53	24.81
佐賀県	8.26	9.41	8.23	11.41	27.87
長崎県	7.36	7.64	6.29	9.29	20.43
熊本県	0.66	0.80	1.18	4.10	14.98
大分県	2.55	3.78	3.48	5.64	19.98
宮崎県	0.93	2.46	2.78	7.25	24.08
鹿児島県	1.84	2.84	3.03	7.41	16.97
沖縄県	1.69	3.31	9.17	25.90	55.26

照会先：厚生労働省健康局結核感染症課
電話：代表 03(5253)1111
夜間直通03(3595)2263
担当者：中嶋 室長 (内線2389)
林 課長補佐 (内線2373)

平成23年1月21日

インフルエンザの流行が拡大中！

ピークに備え、あらためて予防の徹底を

■患者が急増、定点あたり報告数が12.09、推定外来受診者数は78万人に

インフルエンザ患者が急増しています。平成23年第2週(1月10～16日)の感染症発生動向調査では、定点あたり報告数が12.09となり、前週の5.06と比べて2倍以上も上昇しました。推定外来受診者数も78万人となり、前週の15万人から5倍以上に増加しています。例年、流行のピークは1～2月であり、いよいよ流行の拡大が本格化しつつあるといえます。

■昨シーズンかからなかった成人(20代以上)の患者が多い傾向

推定外来受診者数を年齢別に見ると、現在、成人(20代以上)が患者の半数以上を占めています。昨シーズンの流行の中心は小児や学生(5～19歳)で、成人(20～50代)は患者全体の3割弱でした。今シーズンは、昨シーズンにかからなかった世代でインフルエンザが広がっている傾向が見られます。

■現在の主流は新型(A/H1N1)、昨シーズンと同じく重症化にも注意を

ウイルス型別では、昨シーズンに流行した新型インフルエンザウイルス(A/H1N1)が昨年12月から、季節性ウイルスのH3N2香港型に代わって急増、今年に入って最も多く見られています。

その新型(A/H1N1)とH3N2香港型が混在して流行する現在、1月18日時点で72名の重症者、22名の死亡者が報告されています。ちなみに、新型(A/H1N1)の病原性は昨シーズンと同様で、変化は見られていません。

今シーズンも新型、季節性を問わず、お年寄りや基礎疾患をおもちの方、幼児、妊婦の方を中心に、昨シーズンと同じく注意が必要です。

《《《 流行にのらない！ インフルエンザ予防のポイント 》》》

基本的な方法は従来と変わりません。流行にのらないよう、予防に取り組みましょう。

①ピーク前のワクチン接種

インフルエンザにかかった場合の重症化を防ぐ効果が期待できます。接種から2～3週間で効果が現れますので、流行がピークを迎える前の接種が望まれます。

②人ごみを避け、外出先から帰ったら手洗いを

インフルエンザにかかった人がいる可能性が高い人ごみをできるだけ避け、外出先から帰ったら手洗いを徹底しましょう。

③「かかったら広げない！」を基本に、まわりの人への配慮を

もしインフルエンザにかかってしまったら、まわりに広げないことがとても大切です。せきやくしゃみが出る時には、他の人から顔をそらせ、マスクを着用するなどのせきエチケットを心がけましょう。お年寄りや病気で体力が低下している方にうつさないよう、それらの人が多く集まる施設には入らないなどの配慮も必要です。

詳細は厚生労働省ホームページをご参照いただくか、または相談窓口へお問い合わせください。



【厚生労働省ホームページ】

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/index.html>

【相談窓口】(委託先：株式会社保健同人社)

電話番号/03-3234-3479 受付時間/9:00～17:00(土日祝日除く)